資 料

屋外棲息性ゴキブリ数種について

Notes on some wild cockroaches in
Western Japan

木 船 悌 嗣・加 茂 甫

Teiji Kifune and Hajime Kamo

本来野外に棲息するゴキブリも、屋内侵入の可能性あるものあるいは屋内棲息種を近縁種に持つものなどは、害虫化の潜勢力などの観点から特に興味ある研究対象と考えられる。その意味で本州および九州の一部で見出された屋外棲息種3種について、とりあえず採集記録を報告する。

1. *Blattella nipponica* Asahina モリチャバネゴキブリ

主として米子市近郊および福岡県西部で採集を試みた結果、次の諸地域でその分布を確認することができた。大部分の個体は飼育に供したり、実験材料に用いたりしたために、標本として残したものは少ないが、記録によつて採集地名のみ挙げた所もある。

〔鳥取県〕

米子市東福原（標高2m, 以下同様）：1963年5月13日幼虫1頭採集の記録がある。このほか1♂および幼虫数頭を庭に積んだ薪（主として杉・桤）より得たが、その後見出してない。おそらく薪に附着して他から運び込まれたものであつて、定住しているのではないと考えられる。

同 上栗島（35m）：1♂, 11.x.1962（原・杉原）〔幼虫より飼育〕。

栗島神社境内にて約20頭の幼虫を得て飼育したが、羽化を見たのは上記1♂他数頭であつた。

同 城山（70m）：毎年必ず3月下旬より幼虫を見かけ、その後6月ごろまでは羽化した成虫も認めるが、夏季に入ると棲息地を変えるためか、あるいは個体数の減少のためか、全く姿を見なくなる。1963年5月13日幼虫12頭採集の記録あるほか、毎年6月、数回にわたり、幼成虫を採集している。

西伯郡伯仙町岡成（80m）：19♂♂1♀, 8. vi. 1962（木船）；8♂♂2♀♀, 10. vi. 1962（木船）。

八幡宮境内の落葉堆積中に多い。附近の叢にも見られるが、こちらは多くはない。上記の他に1963年4月29日

に幼虫24頭の記録あり。

日野郡溝口町福岡（250m）：1♂, 20. v. 1953（畑中）。

〔島根県〕

能義郡伯太町安田（80m）：1♂1♀, 18. vii. 1963（木船）。

〔山口県〕

岩国市六呂師（300m）：2♂♂, 10. vi. 1961（加茂）。

〔福岡県〕

福岡市香椎（10m）：1961年および1962年5月に調査した結果、多産することを確認、とくに香椎宮境内の落葉堆積中に多い。

同 愛宕山（40m）：ここにも多産する。標本としたのは次の通り。

3♂♂, 31. v. 1961（木船）：1卵鞘およびそれより孵化した1令幼虫4頭, 18. viii. 1961（木船）〔この卵鞘は♀が保持していたものではなく、地上1m許の潤葉灌木の葉表上に産付されていたものである〕。

久留米市外高良山麓（80m）：4♂♂, 24. vi. 1961（木船）〔終令幼虫より飼育〕。

愛宕神社境内の落葉堆積に多い。上記のほか1963年5月25日に多数採集の記録あり。

三潁部城島町・大木町（4～5m）：1963年6月14日の調査により、各地に点在する神社境内のうち4カ所で若干の成虫を得た。すべて定住しているものと認められた。

三池郡高田町渡瀬（5～6m）：7♂♂4♀♀, 30. v. 1961（木船）；幼虫24頭, 30. v. 1961（木船）〔上記後代飼育〕。

大牟田市倉永（70m）：ここでは人家内に侵入して来るのが認められた。一部は既報（Kamo, Kifune, & Hatsushika, 1961*）したが、その後得た標本は次の通り。断り書きのないものは、庭その他屋外で採集したものである。

2♀♀, viii. 1960（坂梨）〔室内〕；2♂♂5幼虫, iv. 1961（加茂）〔成虫は幼虫より飼育羽化せしめたもの〕；1♂2♀♀, vi. 1961（坂梨）；1幼虫, 11. v. 1961（加茂）；6♂♂2♀♀, 3. 5. v. 1962（加茂）〔幼虫より飼育羽化せしめたもの〕, 10幼虫, v. 1962（木船）；1♂, 16. vi. 1962（加茂）〔室内〕。

〔熊本県〕

1) 鳥取大学医学部医動物学教室

Department of Medical Zoology, Tottori University
School of Medicine.

* チャバネゴキブリの野外型と記して取扱つたが、ここでは一応本種とする。

熊本市本妙寺 (50m) : 1962年5月27日, 多数幼虫採集の記録あり.

以上を通覧してみると, 本種は低山地帯から平地にかけて分布し, 一応完全な野外棲息種であつて, 主として神社境内や庭, 灌木林地等の地表が本来湿気が少なくて潤葉落葉の堆積の豊富かつ絶えない所 (若干ササ類の葉を含むとなお好適のようである) に多く, そのような発生源が人家にごく近い場合には, 屋内へも侵入してくる, ということが言えよう. また屋内へ入つた場合には温度の高い所を好み, 食パンなどを好んで食べることが観察された. 野外にあつては3令前後の幼虫態で越冬し, 3月下旬ごろより成長を始め, 6~7令を経て5月中旬ごろ羽化する. この後8月および10月にも羽化をみるが11月に入るとほとんど幼虫の成長は止まり, 成虫も死滅してしまうものと思われる. 従つて年発生回数は3回であろうと推定している. 最も活動的な時期は5月上旬より6月中旬にかけてであつて, 丁度第1化期にあたる. このほかの時期には見かける個体数がかなり減るが, これはおそらく人目につかぬ所に潜むためであろう.

2. *Liosilphoidea* sp.

これも純然たる野外棲息種であるが, 前種同様, 時に屋内への侵入が見られた. また野外では前種と混棲することが多い. 動作は極めて敏速で, 捕えるのはなかなか困難であるが, 前種のように飛翔することは未だ観察していない.

1960年7月に加茂が大牟田市倉永で発見し, 翌年4月および6月に木船が再び同地で幼成虫を得て, その後約半年間飼育し, 卵および1令幼虫を得たが, 老熟に至らず斃死した. おそらく前種同様, 3令前後の幼虫態で越冬し, 成虫は年2回程度の発生と思われる. 第1回の羽化は6月上旬である. 雌成虫の卵鞘保持期間は1週間くらいで, その後他の物体に産付する. しかし, その附着力は強くはなく, 容易にはぎとることができる. 卵期は産下後2~3週間である. 雌が卵鞘を保持している間は *Blattella* と異なり, 縦隆起線を下側に縦位置のまま, 横転することはない. 卵鞘の形も *Blattella* と異なり, 隆起線側が長い弧状を呈し, 黒色. 未交尾でも卵鞘が形成され, 孵化しないことは *Blattella* と同じである. 飼育容器内では, 給水用の綿球に好んで産下した所からみて, 野外では湿気の多い落葉の下などに産むものと思われる. 第1化期成虫の産んだ卵鞘の孵化は7月中旬に始まり, 成虫の寿命は飼育によれば2~4週間である.

大牟田市倉永: 1♀, 24. vii. 1960 (加茂) [室内, 夕方]; 1♂, 27. vii. 1960 (加茂) [室内]; 1♂, 22. viii. 1960 (加茂) [室内]; 1♂, iv. 1961 (加茂) [幼虫より飼育]; 4♀♀, 19. vi. 1961 (木船): 5♀♀, vi.

1961 (木船); 1♂, 22. vii. 1962 (坂梨) [台所, 夜].

3. *Anaplectella* sp.

かなり珍しい種のようにであり, 次の1頭を有するのみで, 生態その他に関する知見はまだ得ていない.

大牟田市倉永: 1 ex., vii. 1960 (加茂).

上記2および3の同定について助言を賜つた予研の朝比奈正二郎博士に謝意を表する.

文 献

- 1) Asahina, S. (1955): A tentative list of Japanese cockroaches (Blattaria). Jap. J. med. Sci. Biol., 8(2): 199-205. —2) 朝比奈正二郎(1960): 邦産家住性ゴキブリの学名の整理. 衛生動物, 11(4): 188-190. —3) Asahina, S. (1961): A revised list of the Japanese cockroaches of sanitary importance (Insecta, Blattaria). Jap. J. med. Sci. Biol., 14(3): 147-156. —4) 朝比奈正二郎(1963): 日本産ゴキブリ類の分類ノート. I. 衛生動物, 14(2): 69-75. —5) 石原保(1954): 日本産ゴキブリ類概説. 新昆虫, 7(12): 2-8. —6) Kamo, H., Kifune, T. & Hatsushika, R. (1961): Comparative studies on two strains of *Blattella germanica* in Japan. I. (Orthoptera: Blattellidae). Yonago Acta Medica, 5(1): 53-58. —7) 高橋良一(1924): ゴキブリ類の生活史. 動雑, 36: 215-230. —8) 高橋良一(1940): タイワンチャバネゴキブリの習性及び若虫に就て. 台湾博報, 30: 26-29.

Summary

Distributional records and biological informations on three Japanese wild cockroaches, *Blattella nipponica* Asahina, *Liosilphoidea* sp. and *Anaplectella* sp., were reported. *Blattella nipponica* was commonly found and collected afield from many localities of Tottori, Shimane, Yamaguchi, Fukuoka, and Kumamoto Prefectures, in the western part of Japan. *Liosilphoidea* sp. and *Anaplectella* sp., however, were found from only one locality, Ômuta City, Fukuoka Pref., whereupon was often observed the former species coexisting with *B. nipponica* not only in field but also in human dwellings. It seems to be caused by repeated intrusions from their natural habitats. The data of laboratory rearing experiments led to an estimation that the adult stage of *B. nipponica* usually appears three times a year and that of *Liosilphoidea* sp. does two times. Female adult of *Liosilphoidea* brought her oothecae for about a week and then deposited on some wet substances such as the cotton mass for water supply. Larvae hatched usually in a period of 2-3 weeks after release of oothecae from female.